

原著論文

特別活動における学校行事の課題とその対応策

Countermeasure and Initiatives of School Events in Special Activities

古川 鉄治 (白百合女子大学) ・ 坂本 正彦 (世田谷区立烏山小学校)
 Furukawa Tetsuji (Shirayuri University) ・ Sakamoto Tetsuji (Karasuyama Elementary School)

新学習指導要領の特別活動では、育成すべき資質・能力の3つの柱のうち、「学びに向かう力、人間性等」の「社会参画」、「自己実現」を重視し、児童が協力しながらよりよい学校生活を築くために、体験的な活動を通してその力を育成することが示されている。しかし、体験的な活動には体験を要する時間が必要であるにもかかわらず、標準授業時数の増加により、学校行事に使える授業時数が減ってきている。しかも、教職員の働き方改革に向けて余剰時数の削減、温暖化対策として夏季休業日の延長、自然災害等による学校の休校など、学校行事に使える授業時数は益々減る現状である。そのため、学校行事にかかる授業時数を確保し内容を精選すること、各教科等と関連させながら実施するカリキュラム・マネジメントの工夫を行い、学校行事を充実させる取り組みが必要であると考えられる。

1 新学習指導要領における学校行事の改訂の重点

現行学習指導要領（2008年）と改訂学習指導要領（2017年）の学校行事の記述を比較してみると、次のことを重点にして実施することが必要になると考えられる。

- 目標の記述の変更点からは、「全校又は学年の児童で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して」とあり、全校児童や学年児童で協力した取り組みをして他者との交流を重視したり、体験的な活動を通して行ったりすることを重視する。
- 内容の記述の変更点からは、「それぞれの学校行事の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し、主体的に考えて実践できるよう指導する。」とあり、児童が学校行事への意義や意味を自覚し、主体的に行動できる力を養うことを重視する。
- 文化的行事では、「自己の向上の意欲を一層高めること」と「自己」の記述が加えられ、文化的行事では、自己実現を図ることを重視する。
- 健康安全・体育的行事では、「事件や事故、災害等から身を守る」ことが新しく追加され、児童が事件や事故に巻き込まれたり、自然災害、交通災害、人的災害等に遭遇したりする危険性が増加する昨今の実状から、自分で自分の命を守ることができる力を育むようにする。
- 遠足・集団宿泊行事では、その目標の記述が「よりよい人間関係を築く」に改められ、より人間関係形成能力を高める遠足・集団宿泊行事となるようにしていく。
- 内容の取扱いでは、「行事及びその内容を重点化するとともに、各行事の趣旨を生かした上で、行事間の関連や統合を図るなど精選して実践すること。また、実施に当たっては、自然体験や社会体験を充実すること」とされていることから、これまでの行事の精選や重点化を図る。また、遠足・集団宿泊行事では、自然の中で行う遠足や宿泊的行事を、勤労生産・奉仕的行事では、職場体験やボランティア体験等の活動を重視する。

2 学校行事に対する児童や保護者の意識

次の資料は、坂本が勤務する世田谷区立烏山小学校で、2018年11月に実施した学校関係者評価アンケート調査

(調査対象：第5学年，第6学年児童139名，全保護者538名)の学校行事に関する意識調査のグラフである。

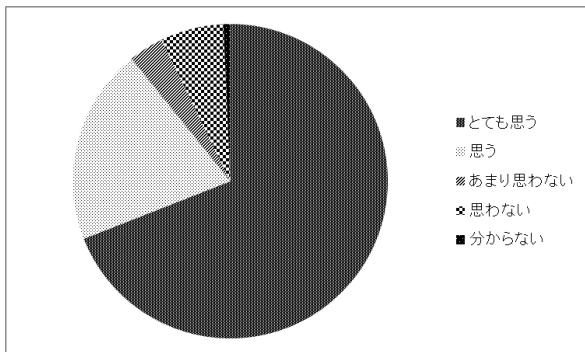


図1. 私には楽しみにしている行事がある

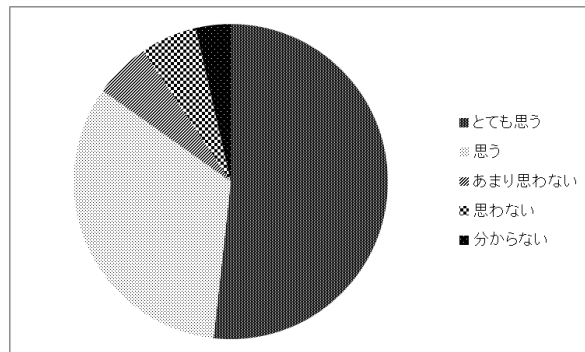


図2. 行事ではみんなが活躍するチャンスがある

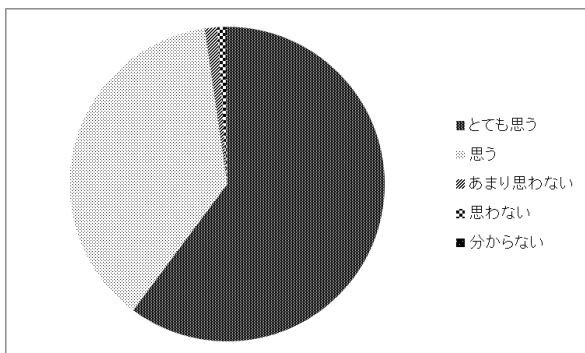


図3. 子供たちは学校行事を楽しみにしている

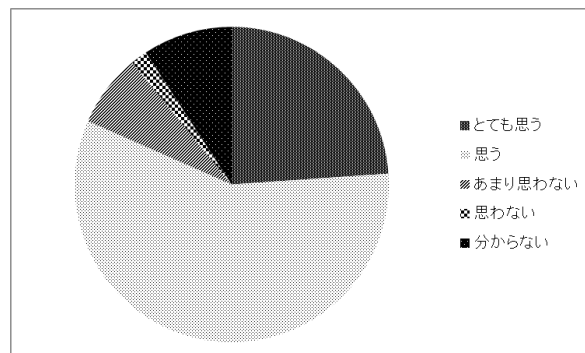


図4. 学校行事の準備にかかる時間は適切である

図1と図2は，児童に対する調査結果グラフである。「とても思う」「思う」の肯定的な評価は85%以上であり，児童は学校行事を楽しみにしており，一人一人が活躍できる場として肯定的に受け止めている。学校行事は自己実現の場になっていると捉えることができる。

図3，図4，図5は，保護者に対する調査結果のグラフである。図3と図5のグラフを見ると，90%以上の保護者が，児童が学校行事を楽しみにしていると捉えており，児童が活躍する場面があると，肯定的な評価をしている。それに比べると，図4の学校行事の準備にかかる時間については，多様な意見をもっていると考えられる。

これらのことから，児童も保護者も学校行事を楽しみにしており，学校行事では，みんなが活躍する機会があり，保護者からも認められる場があることによって，みんなで力を合わせ個人や集団の力をより高め，自分の成長を実感でき，自己実現が図れる効果的な場となっていると捉えることができる。

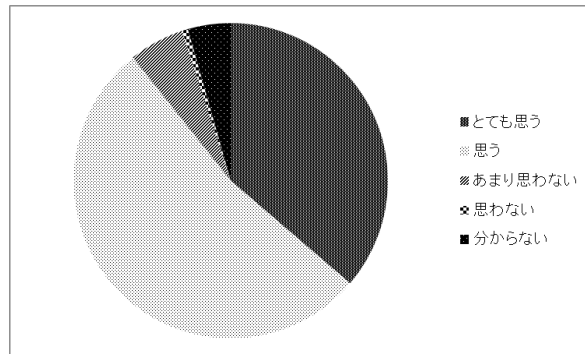


図5. 子供たちが活躍する場面がたくさんあり，内容が充実している

3 標準授業時数の増加と学校行事にかけられる授業時数の減少

表1は，現行学習指導要領（2008年）と改訂学習指導要領（2017年）の各学年の標準授業時数を比較した表である。

表1. 現学習指導要領と新学習指導要領の各学年の標準授業時数

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年
現学習指導要領	850	910	945	980	980	980
新学習指導要領	850	910	980	1015	1015	1015

第3学年以上は、35時間分増えている。これは、第3、4学年に「外国語活動」が年間35時間入り、第5、6学年に「外国語」が年間70時間になったからである。各学校では、移行措置期間の間に1コマ増えたことで、時間割編成や生活時程を工夫して、令和2年度の新学習指導要領全面実施に備えている。標準授業時数には、特別活動のクラブ活動、児童会活動、学校行事の授業時数は入っていない。そこで、標準授業時数以上の授業時数を確保しなければならない。月2～3回行うクラブ活動には20時間、月1回程度行う児童会活動には11時間、そして学校行事には50時間程度は必要である。

また、最近では、次の理由により、授業日数が削られる場合が多くなってきている。

○感染症による学級閉鎖の増加

インフルエンザや感染性胃腸炎等は、昨今年間を通して流行することが多くなった。インフルエンザもA型、B型等があり、児童によってはインフルエンザで2回以上学級閉鎖で出席停止になることがある。感染症の流行を防ぐためには、早期に学級閉鎖をして感染を防ぐのが良好の策である。例えば、インフルエンザの場合は、最低3日間の学級閉鎖をする。その場合、1日6時間の授業があるとすると、6時間×3日で、計18時間の授業時数が減ることになる。これは、学校行事3日分に匹敵し、それだけ余剰時間を減らすことになり、その結果学校行事にとれる授業時数も減ることになる。

○教職員働き方改革での余剰時数の削減

2019年3月、文部科学省の「平成30年度公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査の結果及び平成31年度以降の教育課程の編成・実施について」の通知で、学校における働き方改革に配慮した対応をすることとして、標準授業時数を大きく上回らないようにと通知が出された。通知には、「小学校第5学年においては、1086単位時間以上の授業時数を確保する小学校が、平成30年度の計画段階で全体の25.7%見られた。」と指摘している。標準時数に70時間を加え教育課程を編成することは、児童及び教員の過重な負担になるということであると指摘されている。この70時間に、特別活動のクラブ活動、児童会活動、学校行事が含むことを考えると、特別活動の時間を削減し、学級閉鎖等による時間数を余剰時間として確保しておく必要がある。

○自然災害や猛暑による授業日数の減少や学校行事の縮小

喫緊では2019年9月、千葉県の学校で、台風被害で休校することを余儀なくされた学校があった。学校再開に当たって、標準授業時数確保のために、平日の授業を1コマ以上増やし7時間目の時間割を作成したり、土曜日を授業日にしたりして対応した。「子供が楽しみにしている運動会や文化祭、修学旅行等は減らさないでほしい。」という意見も多い。今後、このような自然災害に遭うかもしれないことを考えると、余剰時数の確保は必要である。

また、昨今の記録的な猛暑で、夏季休業日の日数を増やしたり、屋外で行う活動を中止したりしているところもある。今後、遠足や運動会、屋外での勤労奉仕活動やボランティア活動などの学校行事の縮小が数多く行われることが予想される。

これらのことを踏まえると、これからの学校行事は、実施のための授業時数を十分確保し内容を精選すること、各教科等と関連させながら実施するカリキュラム・マネジメントの工夫を行い、内容面においても充実したものになるようにしていく取り組みが必要である。

4 学校行事の授業時数の確保とカリキュラム・マネジメントの工夫

表2は、令和元年度の世田谷区烏山小学校の各学年の標準授業時数とクラブ活動、児童会活動、学校行事と余剰

時数である。

表2. 各学年の標準授業時数とクラブ活動、児童会活動、学校行事と余剰時数

	第1年年	第2年年	第3年年	第4年年	第5年年	第6学年
標準授業時数	874	935	980	1015	1015	1015
クラブ活動				18	18	18
児童会活動					11	11
学校行事	43	401/3	431/3	48	712/3	641/3
余剰時数	59	472/3	532/3	45	411/3	472/3
年間総授業時数	976	1023	1077	1126	1157	1157

※新学習指導要領では第1学年の標準授業時数は850時間、第2学年は910時間だが、世田谷区は英語活動と教科「日本語」の時間が加えられている。

充実した学校行事を行うために最低限必要な学校行事時数を確保し、カリキュラム・マネジメントを工夫して、次のような取り組みを行った。

(1) 総授業時数の確保

- ・土曜授業日を月1回4時間実施し、年間11回行うことで、4時間×11回で、44時間の授業時数を確保した。
- ・従来、開校記念日や都民の日は休校にしたが、授業実施日にして2日分の授業時数12時間を確保した。
- ・第5、6学年の外国語活動の時間70時間の35時間の1コマをICT教材を活用した外国語活動にして、週3回、15分の短時間（モジュール）学習にし、朝の会前の朝学習の時間帯を確保した。（表3）
- ・会議の精選や研修を集約したりして、クラブ活動、委員会活動を除く週29コマを確保した。（表4）このような授業時数確保の取り組みを行い、学校行事に使う授業時数を確保するとともに、インフルエンザ等の学級閉鎖や自然災害等による休校に備える余剰時数を各学年40時間以上確保した。

表3. 第5学年、第6学年の外国語短時間（モジュール）学習を取り入れた時程

	月	火	水	木	金
8:15～8:30	児童朝会	外国語	外国語	児童集会	外国語
8:30～8:40	朝の会				
8:40～9:25	1校時				

表4. 週のコマ数

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6		ク・委			

(2) 本校の学校行事の内容と時数（令和元年度）

表5. 学校行事の時間数

行事（移動時間を含む）

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
始業式・入学式・終業式・大掃除	4 2/3	5	4	4	4	4
避難訓練・防災の授業	6 2/3	6 2/3	6 2/3	6 2/3	6 2/3	6 2/3
1年生を迎える会	1	1	1	1	1	1
発育測定（3回分）	1	1	1	1	1	1
眼科、耳鼻科、歯科、視力、内科	1 2/3	1 2/3	1 2/3	1 2/3	1 2/3	1 2/3
聴力	1/3	1/3	1/3		1/3	
ネットリテラシー醸成講座						1
心臓検診	1			1		
遠足	5	5	6	6		
離任式		1	1	1	1	1
運動会係活動2・準備1					3	3

運動会6+全練3+リハ1	10	10	10	10	10	10
川場移動教室・前健診					12 1/3	
セーフティー教室	1	1	1	1	1	1
交通安全教室	1		1			
センター移動教室				2		
古典芸能鑑賞教室・こころの劇場						4
音楽鑑賞教室(5年)					2	
着衣泳				1		1
水泳記録会2プール開閉2/3	2/3	2/3	2/3	2/3	2 2/3	2 2/3
日光前健診						
社会科見学			2	2	2	2
キッズフェスティバル	3	3	3	3	3	3
連合運動会						4
展覧会(搬入・搬出)	1	1	1	1	1	1
展覧会準備・片付け					1	1
持久走大会	1	1	1	1	1	1
美術鑑賞教室				2		
6年生を送る会	2	2	2	2	2	2
入学式歓迎練習	2					
卒業式練習・準備					5	8
卒業式予行・卒業式					4	4
合計	43	40 1/3	43 1/3	48	65 2/3	64

(3) 各行事の内容のカリキュラム・マネジメント

①儀式的行事

始業式や終業式の次第に、「児童代表の言葉」を入れて、学級活動の内容(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現を図る」とことに関連した内容になるようにした。そして、学級活動で学期のめあてを決め、めあての振り返りを行ったことを「烏山キャリアパスポート」に記録するようにしている。儀式的行事で代表児童の発表を聞くことで、自分の振り返りのや反省となり、さらに希望や目標をもって、課題の実現に向けて努力する気持ちをもたせるようにしている。

6年生は、総合的な学習の時間で、キャリア教育に関わった探究活動を行っていることから、その内容と関連させて、卒業式の呼びかけの言葉の内容や歌を決め、歌は音楽科の時間で学習したものを取り入れている。そのようにして、学校行事としての時間数は、証書授与や卒業式の練習と、卒業式当日だけの時間数となるようにしている。

②文化的行事

学習で学んだ成果を発表し、みんなで楽しむ行事を「キッズフェスティバル」として行うようにしている。例えば、3年生は、総合的な学習の時間に烏山地域について学んだことを生かし、学んだことを伝えるお店にして、来場者に伝えている。4年生は、理科「空気と水」、社会科「くらしを支える水」、国語「落語」等で学んだことを生かし、「空気鉄砲的当て」「くらしと水のクイズ」「落語劇」などのお店を出している。以前は、各学年の学習の内容とはあまり関係ない、「おけけ屋敷」「迷路」「魚釣りゲーム」等といったものであったが、それを学んだことを生かす学習発表会の形に変更し、行事を通して、互いの努力を認め合いながら協力し、よりよいものをつくり出そうとする喜びや、自他のよさを見つけ合う喜びを味わえるようにしている。このように、「キッズフェスティバル」では、自己の成長を振り返り自己のよさを伸ばすことができ、自己の向上に向けての意欲を一層高めることにつながるようにしている。

「学芸会」は、いまだ劇が中心であり、各教科等との関連性が十分とは考えられないので今後は音楽の学習の成果や国語の朗読の成果を生かす音楽会形式に変えようと考えている。また、練習や準備に時間を要し、教科にカウントできず行事の時数を増やすことにもなっているため、各教科等との関連を図る教育課程の見直しと工夫を行い、授業時数の精選に取り組んでいる。

③健康安全・体育的行事

毎月行う避難訓練の内容を地震、火事の災害以外に、人的災害の内容を新たに加えた。また、毎年6月の土曜授業日を「からすやま防災の日」として、煙体験(1,2年生)、消火器訓練(3年生)、止血訓練(4年生)、AED体験

(5年生)、避難所運営訓練(6年生)を実施し、新学指導要領に新たに加わった災害等から身を守る安全な行動をとるための体験活動を取り入れるようにした。また、学級活動(2)ウ「心身ともに健康で安全な生活態度の育成」に関する内容として、東京都が作成した[東京防災]のテキストを使った授業を行うようにした。さらに、授業時数にカウントしない「ショート訓練」と称して、「緊急地震速報」を流し、身の安全を守る体勢をとる1分間の訓練を行うようにした。4年生は、総合的な学習の時間に、社会科の授業と関連させた「地域の安全」に関する探究活動として、防災の内容を取り上げている。

健康に関する行事では、発育測定時に、養護教諭が測定をする前に、学級活動(2)ウに関する内容として、ミニ保健指導を行っている。また、この学習では、体育科の保健の学習との関連を図って行うようにしている。

「運動会」は、体育科の学習内容の延長として、「走・跳の運動」「表現運動」の内容の発表の場になるように工夫している。6年生では、「組体操」を行っていたが、体育科の学習の内容との関連性が薄く、安全面での課題が大きいため取り止めることにした。その結果、その練習のために学校行事として使う時数の削減になった。今後とも運動会の練習では、指導に熱心になるあまり、練習する時間が多くなってしまふことには注意する必要がある。運動会は、5月や10月に行われることが多いが、昨今、気温が高くなって熱中症の危険が増えたこと、台風等の自然災害に遭うことが多くなったことで、その実施の時期を含め、暑熱対策や安全対策に配慮する必要があると増している。

④遠足・集団的宿泊行事

昨今の人間関係の希薄化や自然体験不足といった児童を取り巻く状況の変化を考えると、小学校段階での寝食を共にする集団的宿泊行事や自然体験活動を行う機会は、その重要性が増している。世田谷区では、5年生が移動教室として群馬県川場村に、6年生が林間学園として栃木県日光市に出かけている。川場村では、ハイキングやマスのつかみ取りなどの自然体験を満喫する。日光では、奥日光のハイキングで自然のよさを感じ、世界遺産である日光東照宮で日本の文化のよさを感じている。しかし、これまで、事前学習として、川場村や日光の世界遺産等を調べる学習を総合的な学習の時間に位置付けて学習してきた。この学習内容は総合的な学習の時間が目標とする探究活動の形になっていなかったため、事前・事後の学習を学級活動、現地での活動を学校行事の授業時数にカウントして行うことに変更した。各教科等の目標に照らして合致するよう点検し、本来学校行事としてすべき時数を教科等の授業時数にカウントすることは避けるべきであるとする。

遠足は、1年生と2年生合同で、公園や動物園に行き交流活動をする活動を行っている。3年生と4年生は合同で山や自然体験ができる場所に行き交流活動をする。それぞれ、異学年の人間関係を深める場になるようにしている。また5年生と6年生は、集団的宿泊行事があるので遠足は行わず、学校行事の精選を図って授業時数を確保するようにした。

(4) 学校行事における主体的・対話的で深い学びの実現

世田谷区立烏山小学校では、全ての教科等で「めあて学習」と称し、問題解決的な学習を行っている。学校行事では、「めあてをもつ→実施・体験する→振り返る」という学習過程となるようにしている。導入では、その行事に興味・関心をもてるように工夫し、その学校行事の意義を理解してから一人一人がめあてをもてるように事前指導を行う。体験的な活動を重視して他者と協働しながら実施し、活動後にめあてをもとに活動を振り返り、今後の行事や次年度の行事に生かすことができるようにしている。次の資料は、運動会での5年生児童のめあてと振り返りである。児童が体験した喜びや満足感、活動から学んだこと、次への意欲や課題など、思いや気持ちが表れている。

【めあて】
 ☆音楽係の仕事をきちんとやって、ミスなしで演奏できるようにする。
 ☆南中ソーランをみんなで協力して、カッコいいと思われるように踊る。



【振り返り】
 係の仕事を忘れずにできた。演奏もミスなしでできるように心がけることができた。表現運動や南中ソーランはみんなで心をつなげて最後まで踊ることができた。南中ソーランを踊るとき、2年生の子が「がんばれー。」と応援してくれたので、最後まで踊ることができた。この運動会で応援することの大切さを知ることができた。今年の6年生を見習って、来年もあきらめず最後までみんなを応援したいと思った。

5 まとめ

学校行事は児童にとって、みんなで力を合わせて成し遂げる成就感が味わえる場であり、集団の中で自己の成長を実感でき、自己実現が図れるとともに、よりよい人間関係の形成につながるものである。昨今の社会的な事情から、学校行事に当てる年間の授業時数は厳しい現状であるが、学校は、学校行事に当てる授業時数を確保することに力を注ぐ必要があると考える。また、学校行事の年間指導計画は、各学校の教育課程を見直し工夫しながら、学校や地域の実態に合わせて作成する必要があると考える。今後、児童や学校の実態を考慮し、学校行事の精選や重点化を行い、特別活動の学校行事が求める本来の目標が達成することができるようにしていくことが課題となる。

付 記

本稿は、坂本が勤務校での実践を基に資料を提供し、古川と坂本二人で内容の作成と検討をし、古川が全体をまとめたものである。

引用文献

- 1) 文部科学省『「平成 30 年度公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況調査の結果及び平成 31 年度以降の教育課程の編成・実施について」<https://www.mext.go.jp/b-menu/hakusho/nc/1415> (2019 年)

参考文献

- 1) 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説』特別活動編 東洋館出版社(2017年)
- 2) 一般財団法人 総合初等教育研究所『新学習指導要領改訂の要点』文溪堂(2017年)
- 3) 向山行雄編集『2020年対応 小学校時間割編成がわかる本』教育開発研究所(2018年)
- 4) 毎日新聞『小中、熱中症防止へ一歩』2019年9月17日、『学校再開 行事そのまま』2019年9月18日

英文要旨

Special activities in the new course of study emphasize social participation and self-fulfillment. Children and their parents feel that there is a place to play an active part in school events. However, due to the increase in standard class hours, the time available for school events is decreasing. Moreover, due to recent social circumstances, it is difficult to secure the number of class hours per year for school events. Therefore, it is necessary to secure the number of class hours for school events, to carefully select the contents and to devise the curriculum management.